

「主のご計画」

ローマの信徒への手紙 8章28節

聖学院大学 人間福祉学部 112W 赤坂 愛

私は2年前、大学2年生のクリスマスの時期に洗礼を受けました。洗礼を受けるまでのこと、どのようにして導かれたのかということをお話したいと思います。

私は、父母も祖父母もクリスチャンで、さらに父は牧師であり、自宅と教会が同じ建物の中にある、といった環境に生まれ育ちました。そのため、物心つく前から、毎週日曜日には教会に通うという生活が当たり前になっていました。最初は、教会にいる人達が優しくしてくれたり、小さな子どもたちと遊ぶのが楽しい、などという理由で教会に通っていて、説教を真剣に聞いて理解していたわけではありませんでした。私が小学校高学年になった時、父の仕事の都合で引っ越すことになり、それまで約10年間通っていた教会からも離れることになりました。教会は第二の家のような感覚、教会にいる方々は家族のように思っていましたから、とても寂しい思いをしたことを覚えています。引っ越してからは、新しい環境になかなか馴染めずにいました。物理的な環境面はもちろん、学校での人間関係など、それまでと変化して馴染めなかった事は多くありましたが、教会もまた、しばらくはいくつかの教会を転々としていて、落ち着きませんでした。その上、私はそれまで「教会」と言えば生まれ育った教会のイメージしかなかったため、教会やそこに集う人々の雰囲気、また礼拝の様子が生まれ育った教会と異なることに、戸惑いを感じていました。

中学生になり、部活動に所属することになりました。比較的活発で、毎週日曜日も一日中活動がありましたが、「日曜日は教会に行ってから部活動に参加する」という親の意向に従い、そのようにしていました。しかし、先生も先輩も厳しい部活動の中で、「教会のために部活動に遅刻します」と言っても、あまり理解は得られませんでした。そもそもキリスト教は、日本ではあまり馴染みのないもので、礼拝に参加するという事は、そうそう経験することでは無いのだと思います。ここにいらっしゃる学生の皆さんも、この聖学院大学に入らなければ、教会はどのようなところで、礼拝では何をするのかなど、知ることはなかった、という方が多いのではないのでしょうか。だから、理解が得られないのも無理はないのかもしれない。また、私自身も、この時には教会に行く意味を見出せないでいました。ただ親が教会に行くのを促すから行く、行かなければならない、といった感じで、自らの意志で教会に行くことがなくなっていました。

高校に通いはじめてからも、教会に行くことに対する気持ちは変わりませんでした。更に、部活動もより活発になったことから、教会に行くこと自体も少なくなり、信仰生活からは遠ざかった生活を送るようになりました。しかし、教会に行くのが当たり前、という生活から遠ざかったことが、御言葉の意味や聖書の正しさ、心から祈ることの大切さを改めて考えるきっかけになり、逆に私自身の信仰を確認し、確信させてくれることになりました。久しぶりに教会に行き、聖書を開き御言葉を噛みしめ、神様に祈

ると、ここがわたしのいるべき場所だと感じたことを、覚えています。なぜそう感じたのかと言われれば、特に明確な理由を述べることは出来ませんが、ただ心が落ち着く感覚がありました。そして、神様の存在を疑ったときには、「見ずに信じるものは幸いです。」という御言葉に導かれ、「子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」という御言葉によって、子どもの頃の純粋な心が思い出される、といったように、不思議と、必要なときに必要な御言葉が与えられていました。それ以降徐々に、聖書を開いたり、祈ったりすることが増えていったように思います。

ただ、それでもまだ信仰を確信出来ず、そんな中、キリスト教系の大学である、この聖学院大学に入学しました。皆さんご存知の通り、キリスト教関連科目が必修科目になっていますから、全員がキリスト教に触れ、礼拝というものを経験することになります。先ほども少し述べましたが、この大学に入って初めて、礼拝に参加した、という学生が多いのではないかと思います。実際に、私の周りの友人もほとんどが初めてだったようで、全学礼拝では戸惑っている様子が伺えました。周りからすれば、私は数少ない、「キリスト教を知っている人」だと言えます。ですから、何人かの友人から、様々なことを聞かれました。教会は何のために行くのか、教会に行くと楽しいのか、全学礼拝や授業の中で取り上げられた箇所の意味についてなど、様々でした。最初は、わたしもあまり明確には理解していなかったのですが、わたし自身戸惑いも感じていましたし、「聖書ではこう言っている」と堂々と言うことが出来ませんでした。これは、神様が与えてくださっている伝道のチャンスなのかもしれない、と思うようになり、わかる範囲のことを自分の言葉で話すようになりました。それが、わたし自身にとっても、改めて御言葉を噛みしめるきっかけになり、そのうちに、わたしは心から神様を信じている、と確信をし、洗礼を受けるに至りました。

今思い返せば、今までの一つ一つの出来事は全て、神様のご計画の中にあっただけだということが、自分でもわかります。実は、私はこの大学が第一志望だったわけではありません。しかし、振り返ってみると、結果的に今ここにいることも神様のご計画だったのだと思います。今までの日々の生活の中で、祈りが聞かれなかったり、試練に遭ったりすると、神様を疑ったり文句を言ったりもしました。きっとこれから先も、悩みや葛藤の中を歩むことがあると思います。そのような、試練が与えられたり悩んだりすることも、結果的には自分の身になることであり、神様はその試練も、それを乗り越えるための手段も、すでに用意してくださっているのでしょう。そして神様は、信じれば救われるというチャンスを、私たち全員に、平等に与えてくださっています。このことに感謝し、最後に1箇所、聖書のことばを紹介し、わたしからのお話とさせていただきます。

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。

そうすれば、開かれる。(マタイによる福音書7章7節)

2015年10月16日 聖学院大学 全学礼拝(学生の証し)